

# 特 集

## 『イワクラサミット in 茅野（ちの）』 & イワクラツアー 報告

美咲 （シンガーソングライター）

私は長野県・茅野市を拠点に活動しているシンガーソングライター 美咲です。

イワクラ（磐座）との出逢いをとおして生まれた歌などもあり、イワクラ（磐座）の持つ可能性に魅了されている一人で、イワクラ（磐座）学会の会員でもあります。そんな立場から9月5日（土）、茅野市民館で行われた『イワクラサミット in 茅野（ちの）』そして9月6日（日）に行われたイワクラツアーに関わらせていただきました。その時の私なりの感想といいますか報告記を書かせていただきました。チャンスをいただきました。

9月5日（土）、茅野市民館で行われた『イワクラサミット in 茅野（ちの）』。

講師・パネラーのみなさんの熱心な発表・研究、素晴らしいですよ。たくさんの方に満ちた、創造的なサミットだったと思います。

今、縄文王国に秘められた創造力の源泉が噴き出す！というサブタイトルがまさにピッタリで創造力



の源が噴き出した素晴らしい機会でした。



制作したか  
いがありま  
した。良か  
つたです。  
イワクラ写  
真を撮つて  
くださつた  
のが A K  
Iさんと  
いうカメラ  
マン（この

### イワクラサミットin茅野(ちの)

「イワクラの宇宙から祭政体(まつりごと)の地平へ」

～今、縄文王国に秘められた創造力の源泉が噴き出す～

**チの聖地 茅・地・蛇・靈・道・血・乳・千・風・雞・知・治…**

巨岩や祭祀石などのイワクラ(磐座)は、ハケ岳山麓で育まれた縄文の圧倒的な造型美の謎を解く、新たな扉を開けるか。諏訪湖周辺に張り巡らされた謎の神体・ミシャグジや宇宙樹を想わせる御柱の古層をイワクラから読み解くことで、縄文王国に秘められた豊かな創造力が湧き出す。その時、茅野はチの聖地としてヨミガエル。

会場:長野県・茅野市民館 コンサートホール

主催:イワクラ(磐座)学会

【入場料】前売・会員 1,000円 当日 1,500円

問い合わせは、イワクラ(磐座)学会事務局 TEL06(6351)0075

【プログラム】 9月5日 開場 午後0時半～ 開演 午後1時～

■開会挨拶 来賓挨拶

■地元考古学者による研究レポート

小池 岳史 (茅野市尖石縄文考古館 学芸員)

■映像&LIVE 出演:美咲(シンガーソングライター)

■基調講演 I :藤森照信(建築家・東京大学生産技術研究所教授)

■シンポジウム

パネラー:

鎌田東二(京都大学こころの未来研究センター教授)

田中基(元季刊『どるめん』編集長／多摩美術大学講師)

平野貞夫(元参議院議員／土佐南学会代表)

コーディネーター

渡辺豊和(建築家／イワクラ学会会長)

荻原哲郎(編集者)

総合司会:

小林節子(元フジテレビアナウンサー)

美咲

■閉会挨拶

## ● 開場 午後0：30～

続々と会場に人が集まります。長野県そして遠方、県外からも多くの方が来て下さいました。

コンサートホール・受付前に特設された、諏訪湖～八ヶ岳～霧ヶ峰一帯のイワクラ写真＆その位置が記されているマップ(地図)がみなさんの目にとまつっていました。

報告記の写真もAKIさんです。( )展示のために地域のイワクラと一緒に巡りました。その過程でAKIさんにもイワクラの可能性を感じただけたようです。またその写真をみんなが見てくださった事、とても嬉しく感じました。

このように地図に磐座の位置を落とし込むことで地理の勉強になつたり新しい発見もありました。



## ● イワクラサミットー・ハ茅野 (ちの) スタート！

ステージには、小池岳史氏及び茅野市尖石縄文考古館の破格のご好意により貸し出していた、いた茅野市内の縄文遺跡から発掘された完全体土偶「縄文のビーナス」、「仮面の女



土していく、当時の祭祀形態を考察する貴重な遺物です。磐座の世界観と合わせて考えてみるとより膨らみのある当時のハラカラ祭祀文化を垣間見ることができそうです。

土偶は、共に縄文中期の遺跡から出土して、この二体の土偶は大英博物館の土偶展に出展され海を渡っている時期とも重なり、茅野市を含む八ヶ岳・霧ヶ峰中部高地の縄文文化が世界的に注目されはじめていました。

神」のレプリカや本物の土器たちが展示されました。この二体の土偶は大英博物館の土偶展に出展され海を渡っている時期とも重なり、茅野市を含む八ヶ岳・霧ヶ峰中部高地の縄文文化が世界的に注目されはじめていました。

※ハラカラとは、「いのちが宿り、いのちが育まれ、いのちが帰る」場としてのハラ（腹・肚・胎・原…）を中心に展開してきた、日本文化の根源に息づく思想のことだそうです。荻原哲郎さんから教えていただきました。

総合司会・元フジテレビアナウンサー・小林節子さん（八ヶ岳原村在住）がご多忙のため会場に来られなかつた柳平千代一・茅野市長のメッセージを読んでくださいました。以下がそのメッセージです。

『2009年イワクラサミットが、豊かな自然に恵まれた風光明媚な高原都市・茅野市において開催されることを心からお喜び申しあげます。国特別史跡の尖石遺跡、国宝土偶「縄文のビーナス」、重要文化財土偶「仮面の女神」に代表される優れた縄文遺産を有する茅野市では、この度、この古来からの文化と地の利点を活かすべく「縄文」によるまちづくり構想「縄文プロジェクト」を立ち上

げました。これと機を同じくして、古来より信仰の対象とされていた石、いわゆる「イワクラ」に光をあて、その本質や重要性を広く伝えるとともに、地域が活性化するための「鍵」を見出そうとする場であるサミットが、当市を会場に開催されることは大変意義あることと思われます。縄文王国であるこの地において、過去の創造力ある営みを見つめ直すことにより、これからの一歩づくりやまちづくりに繋げ、活かしていく契機になればと思います。独創的な視点による発表や闊達な討議が交わされ、多くの方が「イワクラ」に関心を寄せられるまたとない機会となるよう、また茅野市を知つていただくよい機会



になりますよう、「祈念申し上げメッセージ」といたします。

茅野市長 柳平千代一 』

市長からのメッセージでした。



この地域で縄文文化と磐座文化がどのように交わり展開していたのか？どのように現在まで引きつがれてきたのか？

そのことを考える題材が茅野(チノ)にあると思います。その意味でどんなサミットになるのか？

した。

当日、パネラーとして参加された講師のおひとりである田中基先生も「極めて重要な発表だった」と評価されていました。縄文中期に多くみられる祭祀の意味を持つといわれる敷石住居の石群と磐座(イワクラ)を比べながら合わせて考えていくことでより当時の祭祀文化と磐座、ムラの営みの関係など鮮明になってくる

### ●地元考古学者による研究レポート

茅野市尖石縄文考古館の学芸員・小池岳史さんが、茅野市芹ヶ沢・芹ヶ沢七石のひとつ『聖石』が縄文時代の聖石遺跡、環状住居跡の真ん中にあつたという研究を発表してくださいました。

実際に60年ぶりに、光が当たった「聖石」・・・素晴らしい遺物がまたひどく注目されたことを嬉しく感じました。

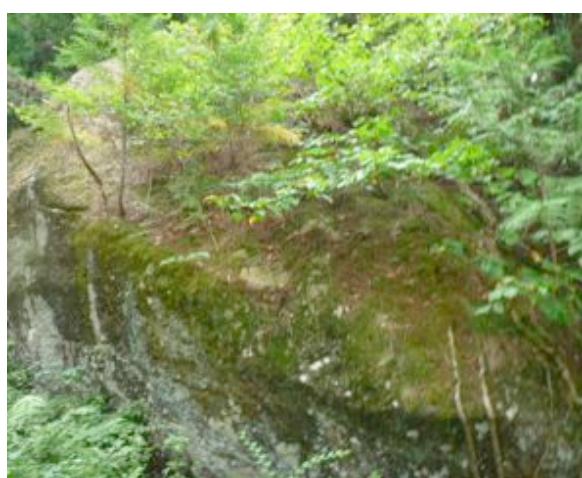
可能性があると思います。その意味で「聖石」の発表は今後の研究の貴重な出発点になるかもしれません。



### ●映像&LIVE

<http://www.youtube.com/watch?v=HIL2MZVvo4Y>

→これが当日放映された映像です。  
諏訪大社上社・前宮から諏訪大社上社・本宮へ続く道の中ほど・・・  
御神体山・守屋山に上がっていいく道の途中の山の斜面にあるイワクラ



この“小袋石（おふくろいし）”。諏訪大社の起源に関わる諏訪地域で最も重要な磐座(イワクラ)がこの小袋石だと言われます。私もなぜか大好きです。“おふくろ”という言葉には、古語では“子宮”という意味もあるそうですが、なんだかその名のとお

“小袋石（おふくろいし）”を囲むように配置された諏訪大社末社・磯並六社（いそなみろくしや）」で、4月19日、午前10時に行われた「磯並六社祭」を、会場のみなさんにも映像で疑似体験していただきました。

り、お母さんに包まれているような、やさしい雰囲気を感じます。

その昔は、諏訪大社の最高神官・大祝（おおほうり）が即位されるとき、この石の前で即位報告が行われたそうです。今、大祝の制度はなくなりましたが、今も小袋石は、諏訪大社の靈性の石として生き続けています。



山の中にたたずむ石たちは、宇宙創世から今につながるまでの全部を記憶し見守り続けてきたのかな・・・

そんなことを想いながら歌いました。そして偶然、この9月5日は満月の日。

サビの歌詞 「♪満月の夜  
さあはじめましよう」 · · ·  
私的にはぴったりでした。



●基調講演 I .. 藤森照信（建築家・東京大学生産技術研究所教授）

#### 藤森照信氏

昭和21年長野県茅野市生まれ。東北大学工学部卒業。東京大学大学院にて近代建築、都市計画史を専攻。現在、東京大学生産技術研究所教授。全国各地で近代建築の調査研究にあたる一方、昭和61年赤瀬川原平氏らと「東京建築探偵団・路上觀察學会」を結成。モノの観察を通して現代文化の断面を斬新に読み解く。また、建築家の作品として「神長官守矢史料館」「タンボ・ハウス」「ラ・ハウス」「一本松ハウス」「秋野不矩美術館」「熊本県立農業大学校学生寮」などがある。日本都市計画学会賞、東京市政調査会藤島賞、毎日出版文化賞、日本文化デザイン賞、サントリーライフ芸賞、

日本芸術大賞、日本建築学会賞受賞  
藤森先生の講演では興味深いことが沢山ありました。

特に「御柱」は神様の依代（よりしろ）ではなくスタンディングストーンと同じもので、

神様が降りる イワクラ（磐座）や依代としての樹木とは分けて考えるべきもの・・・というお話には衝撃を



日本芸術大賞、日本建築学会賞受賞

覚えました。藤森先生は諏訪の祭祀、縄文祭祀のことになどに大変詳しいのにも驚かされました。いやはや勉強しなくてはならないことが沢山あります。

## ● シンポジウム

〈コーディネーター〉  
渡辺豊和（建築家／イワクラ学会会長）  
荻原哲郎（編集者）

（パネラー）  
平野貞夫氏

**平野貞夫氏**  
昭和10年、高知県生まれ。法政大学大学院社会科学科卒業、同大学院神道学専攻博士課程修了。文学博士（筑波大学）。現在、京都大学「この人の未来研究センター」教授。宗教哲学・民俗学・日本思想史・比較文明論など多様な分野にわたって活躍。宗教・哲学・芸術を中心にして世界観・価値観・人生観・生き方について研究。東京自由大学運営委員長、猿田彦大神フオーラム世話人代表、石笛・法螺貝奏者。著書に『翁童論』四部作（新曜社）、『著書に「縄文のメドウーサ…土器図像と神話文脈」（現代書館）・共著に「日本原初考—古代諏訪とミシヤクジ祭政体の研究」「日本原初考—古代諏訪の祭祀と氏族」「日本原初考—諏訪信仰の発生と展開」（永井出版企画）、「縄文図像学I—表象の起源と神話像」「言叢社等、茅野市在住）



昭和26年徳島県生まれ。國學院大學文學部哲學科卒業、同大学院神道学専攻博士課程修了。文学博士（筑波大学）。現在、京都大学「この人の未来研究センター」教授。宗教哲学・民俗学・日本思想史・比較文明論など多様な分野にわたって活躍。宗教・哲学・芸術を中心にして世界観・価値観・人生観・生き方について研究。東京自由大学運営委員長、猿田彦大神フオーラム世話人代表、石笛・法螺貝奏者。著書に『翁童論』四部作（新曜社）、『著書に「縄文のメドウーサ…土器図像と神話文脈」（現代書館）・共著に「日本原初考—古代諏訪とミシヤクジ祭政体の研究」「日本原初考—古代諏訪の祭祀と氏族」「日本原初考—諏訪信仰の発生と展開」（永井出版企画）、「縄文図像学I—表象の起源と神話像」「言叢社等、茅野市在住）

著書に「縄文のメドウーサ…土器図像と神話文脈」（現代書館）・共著に「日本原初考—古代諏訪とミシヤクジ祭政体の研究」「日本原初考—古代諏訪の祭祀と氏族」「日本原初考—諏訪信仰の発生と展開」（永井出版企画）、「縄文図像学I—表象の起源と神話像」「言叢社等、茅野市在住）

『宗教と靈性』『聖地感覺』（角川学芸出版）・『神道とは何か』（PHP新書）・『神と仮の精神史』——神道神習合論序説』（春秋社）・『聖なる場所の記憶』（講談社学術文庫）など多数

シンポジウムは、鎌田東一先生の  
“茅野とは「いのち」の野？”とい  
うお話と、法螺貝の演奏からスター  
トしました。日本列島は四つの大陸  
プレートが重なり合っている世界で  
も唯一の国。またフォッサマグナと  
中央構造線が重なる交点がこの茅野  
市にあるとのこと。それらが縄文や  
八ヶ岳、霧ヶ峰、諏訪の祭祀に大き  
な影響を与えてきたのはまず間違  
ないでしよう。豊富な縄文遺跡そし  
て諏訪大社が両方備わっているチノ  
の可能性を存分にお話くださいまし  
た。

コーディネーターであるイワクラ学  
会会长・渡辺先生の想像力豊かな見  
解、荻原哲郎さんのするどい問題提  
出



起がシンポジウムを盛り上げていま  
した。

平野貞夫さんは政権交代ホヤホヤの

この時・・・  
生々しい政治の話と縄文革命の価値

を熱心に伝えてくださいました。



手の女性議員を結びつけられ語られ  
ていたのは・・・すぐ説得力があ  
りました。

「八ヶ岳の文化はオオバケする可能  
性がある」と言い残されて途中で退  
席されたのも印象的でした。

そして諏訪・八ヶ岳の縄文祭祀に最  
も詳しい方・・・田中基さんです。  
また「原村の阿久遺跡は国会のはじ  
まり」とのお話はとても興味深いも  
のでした。さらに縄文の母系社会と  
今回の小澤チルドレンと言われる若



味深いお話を沢山ありました。

諏訪大社上社前宮の御室神事の中身  
や、縄文での蛇(太陽)と蛙(月)の対  
比は中世以降の諏訪大社の祭祀にも

残されている・・・などのお話。

また鎌田先生もお話くださった八ヶ  
岳(蛇)と諏訪湖(蛙)という対比も実  
に面白い視点をいただきました。  
さらに、敷石住居と胎児の形がよく  
似ていること。これには驚きました。



ここから読み解く縄文祭祀の本質も、  
やはり土偶・縄文の女神、仮面の女  
神にも通じる死生観・宇宙観の「ハ  
ラカラ文化」を感じました。

「大宇宙」という母なるお腹からすべ  
てが生まれ、またそこに帰っていく  
という大きな宇宙観と死生観」を縄  
文人たちは持っていたんですね。そ  
の視点から見ていくと、土器の文様、  
敷石住居の石の配列と図像、土偶の  
造形など・・・すべてがその世界観



でつながっていることがわかつてきます。さらには、このハラカラ文化が日本全体に広がっていく中心的な聖地が、このチノを中心とする八ヶ岳・霧ヶ峰・諏訪湖を含む中部高地の縄文文化圏だったのだという印象を強く感じることができました。

シンポジウム後半では、鎌田先生が石笛を吹かれ・・・縄文の遺物を、こうだと決め付ける



のではなく、今まで柔軟な視点で捉えなおす必要性をお話されました。本当に本当に今、そのことが必要だと思いました。

荻原哲郎さん、渡辺豊和さん、平野貞夫さん、田中基さん、鎌田東二さん

すばらしいお話、ありがとうございました！

### ●閉会式

最後は、来年2010年寅年が諏訪大社・御柱大祭開催年ということです下諏訪町木遣保存会の小松さん、小林さん両氏による「木遣り」での締めとなりました。

「よいさー よいきー よいさー」  
みんなの心が一つとなりました。

関東、関西、中京、北陸、中国、などからも来てくださったみなさん、イワクラ学会のみなさん、今回のサミットの関係者のみなさんのおかげ

さまで本当に意義深いイワクラサミットになつたと思います。  
次頁にイワクラサミットの新聞記事を載せておきます☆



2009年9月6日(信濃毎日新聞)

世界の巨石に理解深めて  
イワクラサミットが開幕



世界各國の「イワク」をスラ  
イ片手に使った紹介する語彙整理

年齢	性別	主な就労場所	主な就労内容	主な就労時間	主な就労状況
20歳代後半	女性	自宅	育児・家庭管理	朝6時頃～夜10時頃	主婦
30歳代前半	女性	自宅	育児・家庭管理	朝6時頃～夜10時頃	主婦
40歳代後半	女性	自宅	育児・家庭管理	朝6時頃～夜10時頃	主婦
50歳代後半	女性	自宅	育児・家庭管理	朝6時頃～夜10時頃	主婦
60歳代後半	女性	自宅	育児・家庭管理	朝6時頃～夜10時頃	主婦
70歳代後半	女性	自宅	育児・家庭管理	朝6時頃～夜10時頃	主婦
80歳代後半	女性	自宅	育児・家庭管理	朝6時頃～夜10時頃	主婦
90歳代後半	女性	自宅	育児・家庭管理	朝6時頃～夜10時頃	主婦
100歳代後半	女性	自宅	育児・家庭管理	朝6時頃～夜10時頃	主婦

卷之十二

10

三

卷之三

2374

二三

卷之三

3079

10

磐座に見る「諏訪文化」

## 第2回サミット会議 全国研究者が討論

子育てテー

圖書總編輯

う

ESTATE PLANNING



◎イワクラサミツトーン茅野の翌  
日、9月6日のイワクラツアーや  
総勢60名の参加となりました！  
しかもバスに乗りきらないというこ  
とで30名ほどは止む無くお断りさ  
せていただきました。（行けなかつ  
た方、すみませんでした。）こんな

## ■ イワクラツアーや

それではイワクラツアーやの様子、レ  
ポートさせていただきます☆

誰一人けがもなく、行方不明もなく、  
無事工程を終了できたことが一番良  
かったです。

すごい！

に多く申し込みがあるとは・・・予  
想をはるかに上回りました。

絶好のツアーワン日和。

気持ちいい空の下、諏訪・茅野・蓼  
科・八ヶ岳エリアのイワクラをめぐ  
りました。

エクシブ蓼科出発 8:00

雨境峰 祭祀遺跡群 「鳴石」

白樺湖・御座岩遺跡 「御座岩」

諏訪大社上社本宮 「硯石」「御沓石」  
神長官守矢資料館

守屋山ふもと 「小袋石」

昼食

守屋山イワクラ群

解散

## ● 雨境峠 祭祀遺跡群 鳴石(なりし)

長野県北佐久郡立科町八ヶ野



大きな石が鏡餅状に重ねられています。鳴石に耳をつけて小石で軽くコーンと叩いてみると重なり合った石の空洞に響くのか、エコーのかかったコーンと美しい音が聞こえました。いっしょにめぐつたイワクラ学員の方のお話によると冬至の太陽の日の出と方角が合わせられている可能性があるみたい。調べなくては。

### 『鳴石』看板より

鳴石は、古代東山道の雨境峠を中心とした祭祀遺跡群の一つで、五世紀頃から中世にかけて古代の祭りの場であったと言われる。雨境峠には、女神湖の周辺にある「鉤引石」「賽の河原」「与惣塚」「法印塚」など古代から中世にかけての遺跡が多いが、なかでも「鉤引石」と「鳴石」は、

古代人が神聖視した巨石で神の降臨を願うため滑石製の幣（勾玉、管玉、劍、鏡等を滑石で模造したもの）を奉ずる盤座として使われた。この辺一帯から滑石製の勾玉などが多く出土したことから「勾玉原」とも呼ばれている。鳴石はまた、まれにみる重ね餅状の巨石で、かつて鏡石」とも呼ばれた。打つと神秘的な響きが人々の心を安らげることから、壇（まゆみ）の古木とともにこの原の名所となり、この石にまつわる伝説も数多い。

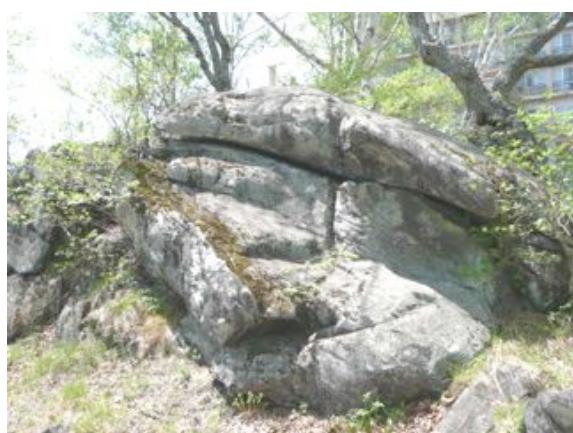
蓼科山略伝説によれば、「風強く吹けばこの石が雷雲たつ。或る時石工が玄能にてこの石を割らんとすれば山鳴り谷にこたえて曇り火の雨降り石工は悶死する」とあり当時の人々の神秘感を伝説にとどめている。また昭和初年にこの地域の人々が詠んだ、蓼科小唄の中にも「登る馬子衆の声高らかに聞くや鳴石霧の中」とあり、いかにものどかな風景がしのばれるなど「鳴石」は古代から現在まで延々と人々の心になつかしく親しみ続けられた名石である。昭和40年に



## ● 白樺湖・御座岩遺跡

長野県茅野市北山白樺湖 3418

町指定文化財として保護されている。



「池ノ平御座岩遺跡」看板より

御座岩遺跡は、白樺湖北岸のほぼ中央から緩傾斜で湖心に突出した安山岩の岩塊群である。この地は標高1400mの高地であり、ここから東方の雨境峠を越えて佐久へのコースは古東山道の役行者越えと呼ばれ、北方へは100mほどで大門峠（標高1441m）へ通ずるなど、古くからの交通の要衝であった。白樺湖は昭和21年に造成された人造湖であるが、88年に減水した時、御座岩の南側に岩穴が現われ、先土器時代の石器、縄文早期から晩期にかけての石器、土器、土偶、耳飾りなどの土製品、さらに弥生式土器、土師器、須恵器、幣玉、宗錢などの古代から歴史時代に至る遺物も発見された。なかでも、滑石製模造品としての幣玉の出土は、この岩を磐座として峠神に旅の安全を祈願したものといわれている。また武田信玄が川中島進攻の時休憩したことと伝えられている。

武田信玄が座つたという伝説も残る、白樺湖畔にたたずむイワクラらしき岩たち。

この十字の線もなにかの役割をもつて意図的につけられた可能性も！？ある方の見解では古代の天体観測所ではないかともおっしゃられていました。このイワクラの岩陰遺跡があり・・・縄文時代の遺物も多数、出土しています。磐座と縄文文化と天体観測を重ねて考えるのは良い磐座かもしません。

## ●諏訪大社上社 本宮

さすが60人。すこいにぎわいで社殿に入っていきました。

諏訪大社上社本宮の諏訪七石・『硯石（すずりいし）』と、『御沓石（おくついし）』を見ました。



・上社	本宮 長野県諏訪市中洲宮山1
・前宮	長野県茅野市宮川2030
・下社	春宮 長野県諏訪郡下諏訪町大門193
・秋宮	長野県諏訪郡下諏訪町上久保5828

諏訪大社は社殿の四隅に御柱（おんばしら）と呼ぶ柱立ての信仰を古くから受けつぎ、幣拝殿や左右片拝殿が横に並び、本殿を欠くなど社殿の配置にも独特の形を備えている。中でも上社本宮は諏訪造りの代表的なもので、建造物も四社の中で一番多く残っている。また神体山の守屋山を拝するという大きな特徴を持ち、祭祀研究の上からも注目されている。拝殿は歴史的な変遷から神体山である守屋山ではなく、神仏習合時代に鐵塔があつた方向へ拝むようになつている。上社本宮の境内には硯石や御沓石などのイワクラがあり、今は見られないが、かつて鐵塔があつた場所にもイワクラが存在しているという。



縄文祭祀の流れを汲むと言われる神長官守矢家の史料館。時間がなかつたため館内には入りませんでしたが、イワクラサミットで基調講演をしてくださった藤森照信先生が建築された神長官守矢史料館は大変、ユニークな建築物です。

### ● 神長官守矢史料館

長野県茅野市宮川389-1



鎌倉時代より守矢家で伝えてきた守矢文書を保管・公開する史料館。守矢家は諏訪明神であるタケミナカタが諏訪に入ってくる以前から土着していた洩矢神（もれやしん）に由来し、古来から諏訪大社上社の五官の筆頭「神長官（じんちょうかん）」を明治時代まで勤めてきた。守矢史料館は守矢家の敷地内に建つていて、古諏訪の祭政体がミシャグジ神という樹や石や笹や大祝（おおぼうり、一種の生神）に降りてくる精霊を中心に繰り広げられた。ミシャグジ神の祭祀権をもつていたのが神長官で、敷地内にまつられる御頭御社宮司社（おんどうみしやぐじしや）は諏訪地方のミシャグジ祭祀の中核でもある。また同じ敷地内に、神長守矢家祈禱殿もある。また同じ敷地内に、神長守矢家祈禱殿も建つておらず、かつて神長官家の祈祷は一子相伝で、神長官以外の何人もたずさわることがゆるされなかつたといふ。史料館は藤森照信先生が基本設計を行い、平成3年に開館。藤森先生は諏訪の建造物の特徴や中世の信仰のイメージを取り入れつつ、構造は鉄筋コンクリートの上に、壁体部分においては内外とも特別調合の壁土を塗り、床面は同様のタタキとし、さらに一部壁



### ● 磐並社・小袋（おふくろ）石

土の上にはさわら材手割り板をかぶせている。また、屋根には地元の「鉄平石」といわれる平石と天然スレートをのせており、正面入口の庇を貫く4本柱は地元産のイチイの樹を使っている。御柱祭の際に、見立てをして木に打ち込むことにより御神木になつたことを表す雑錦が柱に打ち付けてある。中では、諏訪大社の御頭祭の復元資料、守矢家に伝わる鉄鐸や古文書、平成2年に守矢史料館建設に伴い発掘調査を行った状況や出土遺物などを展示している。



途中の山の斜面に位置したイワクラ  
“小袋石（おふくろいし）”。みなさ  
んそれぞれに、このイワクラとの出  
会いを胸に刻んでいました。



諏訪大社上社・前宮から諏訪大社上  
社・本宮へ続く道の中ほど・・・御  
神体山・守屋山に上がっていく道の

諏訪七石の一つで磐座（いわくら）信仰遺跡であ  
る。別名「舟つなぎ石」ともいう。高さ六間五  
寸（12.3メートル）、横四間二尺（7.8メ  
ートル）と古図にある。小山のような石である。  
小松数本が岩の割れ目に自生し、頂上に舟をつ  
なぎやすい形が見られる。太古、諏訪湖の水が  
ここまでついて、舟をつないだと言いたい伝え  
られている。小袋石の下方に石の祠があり、「磯  
並社」である。大祝（おほうり）職位のときの「上  
十三所御社参」の重要な祭場の一つ。近くに瀬明  
神・穂殿明神・玉尾明神もあったという。古図  
によれば神事屋・舞台・五間廊・帝屋などがあ  
つて、旧暦三月午日の祭りには草花でかつらを  
つくり額にかける風習があった（案内板より）

現在は守屋山の伏流水で手打ちした  
「峠の茶屋」の特製そばを堪能。  
そして記念撮影☆

都合で帰らねばいけない方とは、こ  
のポイントでお別れしました。

### ●昼食・杖突峠

長野県茅野市宮川安国寺3372-24



### ●守屋山・イワクラ群(高遠)

長野県茅野市と長野県伊那市高遠町の境



られる守屋山「立石コース」をゆつ  
くりゆつくり登りました。

南アルプス最北端にあたる守屋山の標高は1650mで、諏訪湖や上社本宮の真南に位置する。上社の神体山とも言われ、山頂は鹿嶋神宮の本殿と同緯度に位置する。東峰の頂上にはイワクラがあり、守屋神社奥宮としてまつられる石の祠が置かれ、雨乞いの聖地とされてきた。また中腹にある磐座群と原村の阿久遺跡が同緯度に当たり、さらに山頂の位置が鹿島神宮の本殿の位置と同緯度で結ばれる。ある言い伝えによると、土着の洩矢神の流れを汲む男巫（おとこかんなぎ）が守屋山のイワクラで北斗の神をまつり、様々な秘儀を伝えたというが、現在は密教的な山岳修験の行場であった名残のようなものしか見られない。中腹のイワクラ群には、亀石・陰石・立石（坊主石）・十文字石・平成のビーナス・親子岩・屏風岩・鬼ヶ城・浅間の滝などがある。北斗の神に関連して、北斗星が鎮まるのが「斗隠れ山」であるとの伝承の通り、守屋山の真北に「戸隠山」が位置する。



そして無事、みなさんが怪我なく諒  
訪・茅野・蓼科・八ヶ岳エリアのイ  
ワクラをご覧になつていただけまし  
た。  
下り終わつたとき、ほつと一安心。  
全国各地のイワクラ愛好家のみなさ  
んとお知り合いになれ、一緒にイワ



クラ（磐座）の素晴  
らしさをわかつあう  
ことができて本当に  
うれしく思ひました。

今回のイワクラツア  
ーの企画・引率の社

寺研究家 萩原哲郎さん、篠原さん、  
イワクラ学会事務局 柳原輝明さん、

渡辺会長、写真撮影や展示でご協力  
いただいた A.K.I.さん、ご参加され  
た皆様、本当にお疲れさまでした&  
ありがとうございました！  
そして、この日。最初から最後ま  
で私たちの行動を見守つていいく  
ださつた太陽さん、  
ありがとうございました∞！

了

